

2021年6月14日作成

## 生き物文化誌学会第18回学術大会(大阪大会)プログラム

会場：完全オンライン方式（国立民族学博物館より配信）

令和3年（2021年）6月26日（土）

### 全体プログラム

2021年6月26日(土) Zoomを用いた完全オンラインでの実施

8:30～	当日のZoom接続テスト
8:30～	受付開始
9:10～09:15	開会挨拶：池谷和信（生き物文化誌学会会長）
9:15～09:20	進行方法の説明：渡辺和之（大会実行委員長）
9:20～13:00	一般発表
13:00～14:00	昼休み
14:00～17:55	シンポジウム ヒマラヤにおける生き物と人 —野生動物・家畜・人のコンタクトゾーン—
17:55	学会からのお知らせ：恒川直樹（学会事務局長）
18:00	終了

#### 注意

第18回総会は電磁的もしくは書面により表決を実施します。

2021年度第1回 理事会評議員会は、メールで実施します。

ポスター発表・懇親会・巡検はありません。

---

### 一般発表プログラム

セッション1 座長：中井信介

9:20～9:35 日本におけるセイヨウミツバチ移入後のニホンミツバチの飼育状況  
—特に大正～昭和初期の北海道におけるニホンミツバチについて—  
真貝理香（総合地球環境学研究所）

9:35～9:50 インドネシア・スマトラ島南部における在来スイギュウの乳利用  
(さくら基金発表)  
辻貴志（佐賀大学大学院農学研究科）・Dwi Sarastika Febriany\*  
Indah Widiastuti\*・Muhammad Yazid\*（\*スリヴィジャヤ大学農学部）

9:50～10:05 現代のウズラの食文化 —一味付け卵の認知の進化—  
佐野晶子（一般財団法人家畜学研究所）

10:05～10:20 フナクイムシ養殖に向けての基礎的試験  
平田倫太郎（広島県北部農林水産事務所林務第一課自然保護係）

セッション2 座長：緒方喜雄

- 10:20～10:35 色の名前 ―臙脂における一考察―  
谷麻理（日本画家・有用昆虫利用史）
- 10:35～10:50 奈良県大和郡山市と金魚に関する子ども向けの生き物文化誌教育  
根來央（金魚研究者）
- 10:50～11:05 SNS を用いた生き物文化収集の2事例  
日比野友亮（北九州市立自然史・歴史博物館）
- 11:05～11:20 疫病流行下における幾つかの生活記録簿  
高木仁（国立民族学博物館）
- 11:20～11:30 休憩

セッション3 座長：岡本貴久子

- 11:30～11:45 日本の都市における庭の植物と人との関わりに関する歴史の変容  
―昭和30年代の庭の植物利用を中心に― （さくら基金発表）  
高野哲司（国立民族学博物館）
- 11:45～12:00 里山・農生態系の生物多様性とどう付き合っていくべきか？  
―野生外来種スクミリンゴガイ *Pomacea* spp. を題材に―  
日鷹一雅（愛媛大学大学院農学研究科）  
中井克樹（滋賀県立琵琶湖博物館）
- 12:00～12:15 日本で流通するタイ野菜の多様性の把握に向けて  
増野高司（総合研究大学院大学）

セッション4 座長：遠藤秀紀

- 12:15～12:30 銃猟者による捕獲対象動物の選択と動物種ごとの捕獲継続の可能性  
―大分県竹田市の事例―  
古賀裕基（元 北海道大学大学院環境科学院）
- 12:30～12:45 岐阜・郡上竿の特徴と成立過程に関する予備的調査  
広田勲・山口晴輝（岐阜大学応用生物科学部）
- 12:45～13:00 漁撈・狩猟活動からみたサピエンスによる島嶼適応  
―ウォーレンシアの事例から―  
小野林太郎（国立民族学博物館）

## シンポジウムプログラム

### ヒマラヤにおける生き物と人 ―野生動物・家畜・人のコンタクトゾーン―

ヒマラヤ山脈には、高山帯から亜熱帯までの多様な自然環境が存在する。このため、高度によって生き物と人の関わりも多様なパターンが生じると思われる。本シンポジウムでは、家畜化、交雑、獣害などの点から野生動物と家畜と人の関わりを捉えてゆく。また、近年、野生動物や家畜を取り巻く環境はどう変化するのかを考える。

- 14:00～14:25 趣旨説明 「移牧からみる野生動物・家畜・人の関わり」  
渡辺和之（阪南大学国際観光学部）
- 14:25～14:50 講演Ⅰ「低地におけるイノシシとブタ、ヤケイとニワトリの関わり  
―ネパールとタイでの観察事例から―」  
黒澤弥悦（東京農業大学学術情報）・西堀正英（広島大学統合生命科学研）
- 14:50～15:15 講演Ⅱ「ウマ属の種間雑種と牧畜民 ―バッファーズーンの育種―」  
木村李花子（東京農業大学学術情報課程/「食と農」の博物館）
- 15:15～15:25 休憩
- 15:25～15:50 講演Ⅲ「ヒマラヤ高地におけるヤクの牧畜とユキヒョウ保全  
―ネパール東部での2000～2001年の現地調査より―」  
池田菜穂（地理学者）
- 15:50～16:15 講演Ⅳ「高度帯をまたがるハイブリッドの文化」  
稲村哲也（放送大学）
- 16:15～16:25 休憩
- 16:25～16:45 コメント  
コメント1：本郷一美（総合研究大学院大学）  
コメント2：相馬拓也（京都大学）
- 16:45～17:55 総合討論
- 17:55～18:00 学会からのお知らせ：恒川直樹（学会事務局長）
- 18時00分 終了